

センター試験 数学 I ・ 数学 A (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：35 問
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化 ○ やや難化	● ほぼ同じ ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 昨年と比較して、難易度に変化なし。出題の分量・形式についても例年通りである。過去に類似する問題が多い他、段階を踏みながら解答できるように丁寧な問題文になっているため、過去問を使った十分な対策を講じていれば、高得点が期待できるだろう。目新しい出題はなかった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	[1] 方程式と不等式 [2] 論理と集合	20 点	[1] 昨年と同様に、『絶対値を含む不等式』が出題された。絶対に落とせない問題である。後半も数値を当てはめてしまえば速く解答できるだろう。 [2] 必要条件・十分条件の判断には、『対偶』を用いることに気付けば解けてしまう基本問題である。
第 2 問	2 次関数	25 点	昨年と同様に、『2 次関数』における幅広い知識を問う問題が順番に並ぶ。丁寧に計算するだけである。
第 3 問	図形と計量 平面図形	30 点	前半は△ABC が二等辺三角形であることを利用すれば、無駄な計算を回避できる。後半は問題が進むにつれて作図が複雑になるので、△BCF を抜き出して考えることにより、解法が発見しやすい。
第 4 問	場合の数と確率	25 点	昨年と同様に、『 ${}_n C_r$ の計算』を用いる出題であった。問題文も内容がくみ取りやすいので、丁寧に計算をするだけの基本問題である。